Classifying the irreducible components of moduli stacks of torsion-free sheaves on K3 surfaces and an application to Brill-Noether theory

水野 雄貴

早稲田大学 基幹理工学研究科 博士後期課程 1 年

目次

- モジュライ空間・関手, モジュライスタック
- ② 結果の概要
- ③ 予備知識
 - K3 曲面
 - torsion-free 層のモジュライスタック
- 4 M(v)の既約分解
- 5 Brill-Noether 理論への応用

モジュライ空間・関手

モジュライ空間... 特定の幾何学的対象をパラメトライズする多様体

例 (ベクトル束のモジュライ関手)

X: C 上の射影的スキーム

$$\mathsf{Bun}_X^n: (\mathsf{Sch}/\mathbb{C})^{\mathsf{op}} \longrightarrow (\mathsf{Sets})$$

$$Y \longmapsto \{Y \times_{\mathbb{C}} X \perp \text{の階数 } n \text{ のべクトル束の同型類全体 } \}$$

スキーム M/\mathbb{C} に対して, 関手的同型

$$\operatorname{\mathsf{Bun}}^n_X(-) \simeq \operatorname{\mathsf{Hom}}(-,M)$$

が成立すれば、M を X 上の階数 n のベクトル束のモジュライ空間という.

注意

 $\overline{Y :=} \operatorname{\mathsf{Spec}}(\mathbb{C}) \, \mathsf{E} \, \mathsf{th} \, \mathsf{t} \, \mathsf{t},$

$$\mathsf{Bun}^n_X(\mathsf{Spec}(\mathbb{C})) = \mathsf{Hom}(\mathsf{Spec}(\mathbb{C}), M)$$

より、

 ${X 上 の階数 n のベクトル東の同型類} = {M の点}$

モジュライ空間・関手

しかし, 一般にはモジュライ空間 M は存在しない

(·:)M が存在するとする.

 $\mathscr{E} \in \mathsf{Bun}_X^n(Y) \simeq \mathsf{Hom}(Y, M), \quad \pi: Y \times X \to Y, \quad \mathscr{L} \in \mathsf{Pic}(Y), \quad \mathscr{E}' := \mathscr{E} \otimes \pi^* \mathscr{L}$ のもとで、 $\mathscr{E}, \mathscr{E}'$ はそれぞれ $\varphi, \varphi' : Y \to M$ を定める。 $\mathscr{E}, \mathscr{E}'$ は局所的には同型より、 $\varphi = \varphi'$ となり、 $\mathscr{E} \simeq \mathscr{E}'$ となる。しかし、一般に $\mathscr{E}, \mathscr{E}'$ は同型でない。 \square (原因は \mathscr{E} に非自明な自己同型が存在しうること。)

二つの解決法

- パラメトライズする層を制限する. (安定性の概念の導入)
- 層の自己同型の情報も反映されるようにモジュライ関手を変える. (sets への関手でなく, groupoid への関手にする.)

モジュライスタック

後者の解決法がスタックの概念の導入にあたる. ベクトル束のモジュライスタックがどのようなものか見る.

例 (ベクトル束のモジュライスタック/関手 ver)

X: C 上の射影的スキーム

 $\operatorname{\mathsf{Bun}}^n_X:(\operatorname{\mathsf{Sch}}/\mathbb{C})^{\operatorname{\mathsf{op}}}$ \longrightarrow Groupoids

例 (ベクトル束のモジュライスタック/圏 ver)

対象. (Y, &),

 $Y: Sch/\mathbb{C}$ と $\mathscr{E}: Y \times_{\mathbb{C}} X$ 上の階数 n のベクトル東

射. $(f,\alpha):(Y,\mathscr{E})\to (Y',\mathscr{E}')$ s.t. $f:Y\to Y'$, $\alpha:\mathscr{E}\stackrel{\simeq}{\to}(f\times id)^*\mathscr{E}'$

結果の概要

ピカール数が1の K3 曲面の階数が2の torsion-free 層のモジュライスタックの既約分解 &

点のヒルベルトスキームの Brill-Noether 軌跡の既約分解への応用.

先行研究

- 線織曲面の場合
- \rightarrow C.Walter (1995)
 - モジュライスタックのストラティフィケーション
- \rightarrow V.Hoskins (2018) or T.L.Gomez, I.Sols and A.Zamora (2015)

K3 曲面、向井ベクトル

- 0. X: 射影曲面/ \mathbb{C} X: K3 曲面 $\stackrel{\text{def}}{\Longleftrightarrow} H^1(X, \mathcal{O}_X) = 0, \omega_X \simeq \mathcal{O}_X$
- 1. $E \in Coh(X)$ $v(E) := (rk(E), c_1(E), ch_2(E) + rk(E)) \in \mathbb{Z} \oplus Pic(X) \oplus \mathbb{Z}$
- 2. $\langle v, w \rangle := -[v]_0[w]_2 + [v]_1[w]_1 [v]_2[w]_0 \in \mathbb{Z}$ $\zeta \subset \mathcal{C},$ $v := ([v]_0, [v]_1, [v]_2), w := ([w]_0, [w]_1, [w]_2) \in \mathbb{Z} \oplus \text{Pic}(X) \oplus \mathbb{Z}$

モジュライスタック

3. $\mathcal{M}(v)$:

対象. 向井ベクトルが ${f v}$ の torsion-free 層をパラメトライズする平坦族 ${\cal E}/Y$

射.
$$(\varphi, \alpha) : \mathscr{E}/Y \to \mathscr{E}'/Y'$$

$$\left(\varphi : Y \to Y', \alpha : \mathscr{E} \stackrel{\simeq}{\to} (\operatorname{id}_X \times \varphi)^* \mathscr{E}'\right)$$

4.
$$\mathcal{M}^{\mathsf{HN}}_{(v_1,v_2)}(v) :=$$

$$\left\{ E \in \mathcal{M}(v) \,\middle|\, egin{array}{l} \exists (0 \subset E_1 \subset E) : \mathsf{HN-} \ \exists \ \lor \ \mathsf{l} \ \mathsf{l} \ \lor \ \mathsf{l}$$

5.
$$\mathscr{M}^{ss}(v) := \{ E \in \mathscr{M}(v) \mid E : 半安定 \}$$

M(v) に付随する位相空間

注意

M(v) には以下の位相空間が付随させることができる.

 $|\mathcal{M}(v)| = \{$ 向井ベクトルが v である X 上の torsion-free 層の同型類 $\}$.

一つ目の主結果では、この位相空間の既約分解に関する結果を述べる. また特に断らない場合、 $|\mathcal{M}(v)|$ は $\mathcal{M}(v)$ と同じ記号で表すことにする.

記号

これ以降, X は常にピカール数が1の K3 曲面を表すことにする.

$\mathcal{M}(v)$ の既約分解

主定理1

 v_0 : 原始的な向井ベクトル , $v := mv_0 \ (m \in \mathbb{Z})$ [v]₀ = 2 とする. この時,

$$\mathscr{M}(\mathbf{v}) = \begin{cases} \overline{\mathscr{M}^{\mathsf{ss}}(\mathbf{v})} \cup \bigcup_{\langle \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2 \rangle \leq 1} \overline{\mathscr{M}^{\mathsf{HN}}_{(\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2)}(\mathbf{v})} & \langle \mathbf{v}_0, \mathbf{v}_0 \rangle \geq -2 \\ \\ \bigcup \overline{\mathscr{M}^{\mathsf{HN}}_{(\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2)}(\mathbf{v})} & \mathsf{otherwise} \end{cases}$$

$\mathcal{M}(v)$ の既約分解

注意

主定理1の証明に関しては,

- HN-フィルトレーションによるストラティフィケーションの理論
- K3 曲面の安定層のモジュライ空間の理論 by K. Yoshioka が重要になっている。
 - → 次元の計算などによってストラタ間の関係が記述できる.

Brill-Noether 理論への応用

定義 (点のヒルベルトスキームの BN 軌跡)

D: X 上の有効因子 $N \in \mathbb{N}$ s.t. $N \leq h^0(\mathcal{O}(D))$

$$W_N^i(D) := \{ Z \in \mathsf{Hilb}^N(X) \mid h^1(\mathscr{I}_Z(D)) \geq i + 1 \}$$

注意

$$H^0(\mathscr{I}_Z(D))-\{0\}/\mathbb{C}^*=Z$$
 を通り D に線形同値な有効因子.

一般の $Z \in Hilb^N(X)$ について,

$$h^0(\mathscr{I}_Z(D)) = h^0(\mathscr{O}_X(D)) - \ell(\mathscr{O}_Z) =$$
期待次元.

しかし, $Z \in W_N^i(D)$ について,

$$h^0(\mathscr{I}_Z(D)) > h^0(\mathscr{O}_X(D)) - \ell(\mathscr{O}_Z).$$

Brill-Noether 理論への応用

主定理 2

$$D:=nH$$
 , $v:=(2,nH,\frac{n^2H^2}{2}-N+2)$ とする.
ここで, $H: \operatorname{Pic}(X)$ の生成する豊富な直線束.
この時, 次の集合間に $1:1$ の対応が存在する. $\left\{ W_N^0(D) \right\}$ の既約成分 $\left\{ \overline{W_N^0(D)} \right\}$ し $\left\{ \overline{M_{(v_1,v_2)}^{HN}(v)} \mid (v_1,v_2) \right\}$ は $\left\{ \overline{M_{(v_1,v_2)}^{HN}(v)} \mid (v_1,v_2) \right\}$ は $\left\{ \overline{M_{(v_1,v_2)}^{HN}(v)} \right\}$ に $\left\{ \overline{M_{(v_1,v_2)}^{HN}(v)} \mid (v_1,v_2) \right\}$ は $\left\{ \overline{M_{(v_1,v_2)}^{HN}(v)} \mid (v_1,v_2) \right\}$ に $\left\{ \overline{M_{(v_1,v_2)}^{HN}(v)} \mid (v_1,v_2) \right\}$ に $\left\{ \overline{M_{(v_1,v_2)}^{HN}(v)} \mid (v_1,v_2) \right\}$ の $\left\{ \overline{M_{(v_1,v_2)}^{HN}(v)} \mid (v_1,v_2) \right\}$ $\left\{ \overline{M_{(v_1,v_2)}^{HN}(v)} \mid (v_1,v_2) \right\}$ の $\left\{ \overline{M_{(v_1,v_2)}^{HN}(v)} \mid (v_1,v_2) \right\}$ $\left\{ \overline{M_{(v_1,v_2)}^{HN}(v)} \mid (v_1,v_2) \right\}$

注意

 $leftur{lack}{lack} Z: W^0_{\!\scriptscriptstyle N}(D)$ の一般の元とすれば, 対応する拡大は

$$0 \to \mathscr{O}_X \to E \to \mathscr{I}_Z(D) \to 0.$$

定理 2 → (非空性,) W_N⁰(D) の既約成分の次元や数.

ご静聴ありがとうございました。